

事務事業ID					部 長		課 長		係 長		担当者	
2531												
令和04年度					事務事業マネジメントシート							
事務事業名					支え合い交通構築事業		担当課		市民生活部生活環境課			
政策体系	政 策		4		こころ寄り添う健やかなまちづくり		担当係		生活交通係			
	施 策		1		ともに支え合う福祉の充実		事業期間		平成29年度 ～ 令和4年度			
	基本事業		1		ともに支え合う地域福祉の充実		事業区分		市単独事業・国県補助事業			
予算科目			会計		款 項 目		大 事 業		実施形態			
			一般会計		2 1 8		企画諸費					

【PLAN（計画）】						
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる			
		基本事業の目的	支援が必要な人たちをみんなで支え合う体制を整え、誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らすことができる地域づくりを推進します。			
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	市民	①意図（どのようになることを目指すか）	公共交通空白地域が解消され、住み慣れた地域で生活することができる。	
	初期	②①になるために必要な状態	主に中山間地域における地域の足の確保といった点で、支え合いによる交通手段が構築されている。			

区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
指 標	アウトプット指標	利用件数	人	目標値	150	2,250	2,400	-	-
				実績値	15	22	21	-	-
	アウトプット指標	ドライバー数	人	目標値	20	30	50	-	-
				実績値	6	3	4	-	-
	活動指標	説明会等開催	回	目標値	5	5	5	5	5
				実績値	3	2	5	2	1

【DO（実施）】			
活動・アウトプット	事業概要	公共交通を補完する住民同士で送迎を行う仕組みを構築するため、地域の足の確保に取組む地域に対して、住民主体の新たな交通手段を導入できるよう支援する。	
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動）	
		令和5年度に実証事業を実施するための補助申請手続き及び地域との意見交換会を実施。	

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	一人暮らしの高齢者の急増や運転免許証の自主返納加速化により、交通弱者の増加が見込まれることから、住民同士の支え合いにより地域の足を確保する仕組みを構築するため。								
	根拠法令・要綱等	道路運送法	関連する個別計画	伊達市地域公共交通計画 伊達市地域公共交通利便増進実施計画						
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	支え合いによる移動手段の確保や、支え合いによる地域の在り方といった点では、実証実験を行った地域から評価をいただいたが、地域が主体となって実施するためには、将来の移動手段に関しては不安を抱いている方が多いが、現状は困っていないため、利用者が伸びないなどの課題がある。併せて、運行主体やドライバーの確保に関しても課題がある。								
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	11,718	9,099	6,798	0	0	0
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
その他		千円	0	0	0	0	0	0		
一般財源		千円	11,718	9,099	6,798	0	0	0		
事業費計		千円	23,436	18,198	13,596	0	0	0		

事務事業 ID	2531	事務事業 名	支え合い交通構築事業	所属 課	市民生活部生活環境課
------------	------	-----------	------------	---------	------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 （目指すべき状態への 進捗度）	地域による実情が異なることなど、課題が多い状況である。
課 題	移動手段の確保を必要としている地域や地区の調査が必要である。
対 策	地域との継続的な協議を行う必要がある。 あわせて、令和5年度実施する富野地区での実証事業を踏まえた事業の推進を行っていく。

【**評価結果**】

総合評価	統合	今後の事業全体の方向性やその内容	地域が主体となり、新たな交通手段が確保できるよう、地域との継続した協議や相談支援を行う。 事業に関しては、地域公共交通計画の利用実態や需要規模に応じた移動手段の確保に位置づけとして、地域公共交通網形成計画策定・推進事業に統合する。
------	----	------------------	---

事務事業ID					部 長		課 長		係 長		担当者	
2425												
令和04年度					事務事業マネジメントシート							
事務事業名					伊達市戦没者追悼式事業		担当課		健康福祉部社会福祉課			
政策体系	政 策		4		こころ寄り添う健やかなまちづくり		担当係		地域福祉係			
	施 策		1		ともに支え合う福祉の充実		事業期間		平成27年度 ～			
	基本事業		1		ともに支え合う地域福祉の充実		事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
予算科目			会計		款 項 目		大事業		実施形態		直営	
			一般会計		3 1 1		社会福祉諸費					

【PLAN（計画）】					
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる		
		基本事業の目的	支援が必要な人たちをみんなで支え合う体制を整え、誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らすことができる地域づくりを推進します。		
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	市民	①意図（どのようになることを目指すか）	戦後平和の礎の上に経済発展を遂げた陰には、先の大戦において多数の犠牲があった。このことに深く思いをめぐらす。
	初期	②①になるために必要な状態	戦没者追悼式に参加する市民の数		

指 標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	アウトプット指標	追悼式に参加した市民の数	人	目標値	230	180	180	180	180	180
				実績値	181	160	146	0	0	29
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】		
活動・アウトプット	事業概要	戦没者を追悼し、恒久平和の誓いを新たにするとともに、戦争の悲惨さを後世に語り継いでいくために、遺族会と連携しながら追悼式を開催する。
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） コロナ禍のため、遺族会会員のみの参列とし、規模を縮小して開催した。

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	戦没者を追悼し、恒久平和の誓いを新たにするとともに、戦争の悲惨さを後世に語り継いでいく。								
	根拠法令・要綱等				関連する個別計画					
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		平成27年度から市主催で追悼式を開催してきたが、遺族の高齢者が進む中、式参列者は減少している。							
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	
			地方債	千円	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	1,141	1,080	1,183	220	220	1,202	
事業費計		千円	1,141	1,080	1,183	220	220	1,202		

事務事業 ID	2425	事務事業 名	伊達市戦没者追悼式事業	所属 課	健康福祉部社会福祉課
------------	------	-----------	-------------	---------	------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 （目指すべき状態への 進捗度）	規模は縮小したが、追悼式を2年ぶりに開催し恒久平和の誓いを新たにするとともに、追悼式の内容を広報紙に掲載し、追悼式開催の意義を周知することができた。
課 題	戦後70以上の年月が経過し戦没者の遺族会会員も減少していくなか、恒久平和の誓いを新たにし、戦争の悲惨さを後世に語り継いでいく手段。
対 策	追悼式の内容の見直しを図るとともに、広報紙や市HP活用し周知していく。

【**評価結果**】

総合評価	改善・見直し	今後の事業全体の方向性やその内容	語り継ぐ手段として、中学生などを追悼式に参列してもらおう。
------	--------	------------------	-------------------------------

事務事業ID					部 長		課 長		係 長		担当者	
1944												
令和04年度					事務事業マネジメントシート							
事務事業名					社会福祉協議会支援事業		担当課		健康福祉部社会福祉課			
政策体系	政 策		4		こころ寄り添う健やかなまちづくり		担当係		地域福祉係			
	施 策		1		ともに支え合う福祉の充実		事業期間		平成18年度 ～			
	基本事業		1		ともに支え合う地域福祉の充実		事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
予算科目			会計		款 項 目		大事業		実施形態		補助	
			一般会計		3 1 1		社会福祉団体助成事業費					

【PLAN（計画）】					
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる		
		基本事業の目的	支援が必要な人たちをみんなで支え合う体制を整え、誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らすことができる地域づくりを推進します。		
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	市民 伊達市社会福祉協議会	①意図（どのようになることを目指すか）	・住民参加の地域福祉活動の組織化を推進すること。 ・市民が積極的に地域活動等に参加する。
	初期	②①になるために必要な状態	地区において組織される福祉団体の組織化により、市民が共に支え合いながら安心して暮らすことができるよう福祉活動を充実させる。		

指 標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	アウトプット指標	社会福祉協議会に会費を納入する市民	人	目標値	19,405	19,000	19,000	19,000	19,000	19,000
				実績値	18,343	18,144	17,759	17,681	17,644	17,213
	活動指標	人件費に対する補助金	%	目標値	70	70	70	70	70	70
				実績値	89	71	70	73	82	83
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】		
活動概要・アウトプット	事業概要	社会福祉協議会運営補助金の交付。 社会福祉協議会福祉活動専門員設置事業補助金の交付。 ボランティア活動支援事業補助金の交付。
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） 福祉の総合的な推進役割を担っている、伊達市社会福祉協議会の運営支援。 身近な福祉課題を把握し、関係機関と連携を図りながら住民参加型の「福祉力」を高める地域福祉活動の推進をするため、福祉活動専門員を設置。

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	社会福祉活動の推進を目的とし、営利を目的としない民間組織として設置された社会福祉協議会は、福祉業務を補完するという観点から、全国で行政の助成を受けている。								
	根拠法令・要綱等			関連する個別計画						
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	本市の地域福祉向上を目的に補助を受けながら、地域福祉活動向上を目的に事業を実施している。								
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	41,312	41,312	38,242	38,242	38,242	38,230	
事業費計		千円	41,312	41,312	38,242	38,242	38,242	38,230		

事務事業 ID	1944	事務事業 名	社会福祉協議会支援事業	所属 課	健康福祉部社会福祉課
------------	------	-----------	-------------	---------	------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	住民参加の地域福祉活動の向上にむけた事業の実施 市で推進している地域向上にむけた事業の実施(委託事業以外) ・共生社会の構築 ・避難行動要支援者制度とのタイアップ(あんしんキットの配置)
課 題	市の推進事業と、時代の流れ・ニーズにあった事業の実施
対 策	地域福祉計画の進行管理等の実施により、社会福祉協議会事業との調整を行い、協議を行う。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の 方向性やその 内容	本市の地域福祉活動向上を目的に事業の継続が必要。
------	----	--------------------------	--------------------------

事務事業ID					部 長		課 長		係 長		担当者	
1188												
令和04年度					事務事業マネジメントシート							
事務事業名					地域福祉活動支援事業		担当課		健康福祉部社会福祉課			
政策体系	政 策		4		こころ寄り添う健やかなまちづくり		担当係		地域福祉係			
	施 策		1		ともに支え合う福祉の充実		事業期間		平成18年度 ～			
	基本事業		1		ともに支え合う地域福祉の充実		事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
予算科目			会計		款 項 目		大事業		実施形態		補助	
			一般会計		3 1 1		社会福祉団体助成事業費					

【PLAN（計画）】					
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる		
		基本事業の目的	支援が必要な人たちをみんなで支え合う体制を整え、誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らすことができる地域づくりを推進します。		
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	・ 市民、伊達市社会福祉協議会、地域福祉団体	①意図（どのようになることを目指すか）	市民が福祉活動への参加や支援等により、地域コミュニティの形成が図られる。
	初期	②①になるために必要な状態	福祉活動に参加する市民の参加者		

指 標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	活動指標	地域における福祉活動団体数(補助金交付団体)	団体	目標値	26	26	27	30	30	30
				実績値	26	26	26	26	26	26
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】		
活動概要・アウトプット	事業概要	住民参加の地域福祉活動を推進するため、地域において組織する福祉活動団体が行う経費の一部を助成し、住民主体の福祉活動を支援するために社会福祉協議会を通じて補助金を交付する。
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） 社会福祉協議会を通じた地域福祉活動事業補助金の交付。地域福祉団体の設立の推進。 （社会福祉協議会では、市の補助金とあわせ、福祉活動への金銭的な支援・活動の支援を実施）

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	合併前に旧伊達町、梁川町において実施されていた事業の継承で、地域住民が地域に根差した福祉活動を行う福祉団体を支援								
	根拠法令・要綱等				関連する個別計画					
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		各地域において、①生きがい対策事業、②食事サービス事業、③安心・安全確保事業、④地域福祉推進事業、を実施することにより、地域における自主的な福祉活動が行われている。							
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	
			地方債	千円	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	1,820	1,820	1,820	1,560	1,560	1,560	
事業費計		千円	1,820	1,820	1,820	1,560	1,560	1,560		

事務事業 ID	1188	事務事業 名	地域福祉活動支援事業	所属 課	健康福祉部社会福祉課
------------	------	-----------	------------	---------	------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 （目指すべき状態への 進捗度）	方部民生委員児童委員協議会の小単位である地区社会福祉協議会や福祉会等がある地域と無い地域があり、地域によって充実度が違う。
課 題	地域での福祉活動の充実 自主的な活動と継続（担い手）
対 策	活動の意義を自らが認識しながら地域で活動を推進できる体制構築 関係機関との連携による事業の実施等

【**評価結果**】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	支援が必要な人たちをみんなで支え合う体制を整え、誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らすことができる地域づくりを推進するために事業の継続が必要。
------	----	------------------	--

事務事業ID					部 長		課 長		係 長		担当者	
2422												
令和04年度					事務事業マネジメントシート							
事務事業名					避難行動要支援者対策事業		担当課		健康福祉部社会福祉課			
政策体系	政 策		4		こころ寄り添う健やかなまちづくり		担当係		地域福祉係			
	施 策		1		ともに支え合う福祉の充実		事業期間		平成25年度 ～			
	基本事業		1		ともに支え合う地域福祉の充実		事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
予算科目			会計		款 項 目		大 事 業		実施形態		直 営	
			一般会計		3 1 1		社会福祉諸費					

【PLAN（計画）】					
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる		
		基本事業の目的	支援が必要な人たちをみんなで支え合う体制を整え、誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らすことができる地域づくりを推進します。		
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	避難行動要支援者	①意図（どのようになることを目指すか）	大規模災害時に要支援者に対し、迅速な所在確認、安否確認、避難など適切な支援を行うことにより、被害を最小限に抑える。
	初期	②①になるために必要な状態	要支援者名簿への登録、及び個別支援計画の作成		

	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
指 標	アウトプット指標	要支援者の登録者数	人	目標値	3,500	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
				実績値	2,777	2,937	3,097	3,275	3,700	3,363
	アウトプット指標	個別計画数	件	目標値	300	600	900	1,200	1,500	1,800
				実績値	343	720	608	574	1,184	1,717
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】		
活動・アウトプット	事業概要	避難行動要支援者台帳の行政データによる整備。避難行動要支援者マップの作成。避難行動要支援者の登録。避難行動要支援者の個別避難プランの作成。
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） 対象データの集約・整備 避難行動要支援者の名簿を民生児童委員等へ配布 登録勧奨 個別避難計画作成勧奨

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	平成18年に国による災害時要援護者の避難支援ガイドラインが作成され、「災害時要援護者支援制度」がスタートし平成25年に避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針が示された。 東日本大震災発生を機に、災害対策基本法が改正されたことにより、避難行動要支援者名簿の作成が自治体に義務付けられ、平成29年より「避難行動要支援者支援制度」へ移行した。								
	根拠法令・要綱等			関連する個別計画						
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	登録者については、平時から民生委員・児童委員をはじめ、地域による見守りを受けている。								
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	
			地方債	千円	0	0	0	0	0	
その他			千円	0	0	0	0	0		
一般財源			千円	720	742	770	4,897	1,500	1,550	
事業費計		千円	720	742	770	4,897	1,500	1,550		

事務事業 ID	2422	事務事業 名	避難行動要支援者対策事業	所属 課	健康福祉部社会福祉課
------------	------	-----------	--------------	---------	------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	行政推進員、民生委員・児童委員等の協力を得ながら、対象者への声掛けを行った。 対象者の負担軽減を図るため様式の見直しを行い、避難行動要支援者名簿提供同意書と個別避難計画書を一体型とした。 個別避難計画未作成者へ郵送による勧奨を実施した。(勧奨発送件数:5,145件、返送件数:1,585件) R4年度新規作成者数: 1,470名(累計 2,065名)
課 題	平常時における名簿の活用方法。 名簿の平常時の活用充実のために、名簿登録者の増加。 頻発する災害に備え、個別避難計画の制度理解と作成の推進。
対 策	個別避難計画未作成者への勧奨と、情報の更新勧奨を行う。 制度の趣旨や必要性について、周知を図る。

【評価結果】

総合評価	改善・見直し	今後の事業全体の方向性やその内容	対象者や要支援者に制度を理解してもらうために、制度の趣旨や必要性を地域に出向いての説明や広報等により周知していく。 災害の危険地域など優先度が高い区域や属性に絞り込み、重点的に勧奨を実施する。
------	--------	------------------	---

事務事業ID					部 長		課 長		係 長		担当者	
2404												
令和04年度					事務事業マネジメントシート							
事務事業名					生活困窮者自立支援事業		担当課		健康福祉部社会福祉課			
政策体系	政 策	4	こころ寄り添う健やかなまちづくり			担当係		地域福祉係				
	施 策	1	ともに支え合う福祉の充実			事業期間		平成27年度 ～				
	基本事業	2	生活の安定と自立支援			事業区分		市単独事業・国県補助事業		国県補助事業		
予算科目		会計	款	項	目	大 事 業		実施形態		直 営		
		一般会計	3	1	1	社会福祉諸費						

【PLAN（計画）】									
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる						
		基本事業の目的	疾病や高齢等に伴い、生活に困窮した市民が自立し、安心して暮らすことができるように支援する						
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	生活基盤の劣化などの要因が重なって、生活困窮に陥っている方	①意図（どのようになることを目指すか）	生活困窮者が困窮状態を脱し、自立すること				
	初期	②①になるために必要な状態	生活困窮者が、健康や日常生活をよりよく保持する「日常生活自立」、社会的なつながりを回復・維持する「社会生活自立」、経済状況をよりよく安定させる「経済的自立」状態になること						

区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
指 標	アウトプット指標 (成果) 新規相談 件数	件	目標値	120	70	60	60	60	60
			実績値	66	46	49	102	46	46
			目標値						
			実績値						
			目標値						

【DO（実施）】			
活動・アウトプット	事業概要	生活困窮者に対し、生活保護受給に至る前の段階で早期に支援を行い、困窮状態からの早期脱却を図る。	
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） ①自立相談支援事業 相談件数：46件 プラン作成件数：16件 就労支援件数：16件 ②住居確保給付金 対象者数：6件 対象月数：18月 給付額：623,500円 ③新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金 初回支給 対象者：19件（単身：7件 2人：7件 3人以上：5件） 支給済額：4,860,000円 再支給 対象者：16件（単身：9件 2人：5件 3人以上：2件） 支給済額：4,260,000円	

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	近年、社会経済環境の変化に伴い、生活困窮に至るリスクの高い人々や稼働年齢層を含む生活保護受給者が増大しており、国民の生活を重層的に支えるセーフティーネットの構築が必要となっており、こうした状況に対応するため								
	根拠法令・要綱等	生活困窮者自立支援法		関連する個別計画						
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	失業、病気、家族の介護などをきっかけに生活困窮に陥る人が増えている。生活基盤の劣化などの要因が重なって、自信喪失し将来への展望を失い、生活困窮に陥ることも多い。就職活動も思うように進まず、貧困からの脱却はできず労働意欲が減退していく現状であるが、事業の性格上、相談者に対する支援を主としていることから、全体としての大きな変化は見られない。								
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	7,340	7,364	9,753	10,058	16,419	18,935
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	2,448	2,455	3,709	3,815	4,421	3,776	
事業費計		千円	9,788	9,819	13,462	13,873	20,840	22,711		

事務事業 ID	2404	事務事業 名	生活困窮者自立支援事業	所属 課	健康福祉部社会福祉課
------------	------	-----------	-------------	---------	------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 （目指すべき状態への 進捗度）	支援が必要な人たちを地域全体で支えあうため、必要な機関との連携が必要であり、民生委員・児童委員等への事業周知をはかってきた。関係機関からの引継ぎケース等もある。
課 題	生活困窮者が社会的自立ができるようになるには、それぞれのレベルにあった支援が必要である。
対 策	生活困窮者自立支援事業の一体的な取り組みを実施し、生活困窮の根源である家計改善、就労支援など自立支援事業の充実を図る。

【評価結果】

総合評価	改善・見直し	今後の事業全体の方向性やその内容	R5年度より、生活困窮者の自立支援事業を一体的に取り組んでいくため、社会福祉協議会へ業務委託する。
------	--------	------------------	---

事務事業ID					部 長		課 長		係 長		担当者	
2060												
令和04年度					事務事業マネジメントシート							
事務事業名					在宅酸素療法者酸素濃縮器利用助成事業		担当課		健康福祉部社会福祉課			
政策体系	政 策		4		こころ寄り添う健やかなまちづくり		担当係		障がい福祉係			
	施 策		1		ともに支え合う福祉の充実		事業期間		平成23年度 ～			
	基本事業		3		障がい者福祉の充実		事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
予算科目		会計		款 項 目		大 事 業		実施形態		直 営		
		一般会計		3 1 2		障がい者福祉事業費						

【PLAN（計画）】									
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる						
		基本事業の目的	障がいがある人もない人も同様に、お互いの人権と主体性を尊重し合いながら、住み慣れた地域の中で安心して暮らし、社会参加できる地域づくりを推進します。						
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	酸素濃縮器を使用している障がい者	①意図（どのようになることを目指すか）	在宅で安心して暮らすことができる。				
	初期	②①になるために必要な状態	電気料の一部を支給することにより、経済的な負担を軽減されている状態。						

	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
指 標	アウトプット指標	実支給人数	人	目標値	80	80	92	104	104	112
				実績値	87	85	67	70	60	57

【DO（実施）】			
活動・アウトプット	事業概要	在宅酸素濃縮器を利用している方に、電気料の一部として月2,000円を助成する。	
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） 在宅酸素濃縮器を利用している方に、経済的負担の軽減の点から月2,000円を助成した。 令和4年度実績 実支給人数 57人	

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	近隣市町村ではすでに実施していたこともあり、市民から強い要望が寄せられていたため、平成23年度から開始された								
	根拠法令・要綱等	伊達市在宅酸素療法者酸素濃縮器使用助成事業実施要綱	関連する個別計画	第3期 障がい者計画						
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	経済的負担が軽減されたことによって、安心して酸素濃縮器を利用できるようになった								
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	1,656	1,302	1,992	1,010	1,158	1,086	
事業費計		千円	1,656	1,302	1,992	1,010	1,158	1,086		

事務事業 ID	2060	事務事業 名	在宅酸素療法者酸素濃縮器利用助成事業	所属 課	健康福祉部社会福祉課
------------	------	-----------	--------------------	---------	------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 （目指すべき状態への 進捗度）	経済的負担が軽減されたことによって、安心して酸素濃縮器を利用できるようになった。
課 題	電気代の助成額（月2,000円）が妥当であるか、今後の見直し検討の余地があるか。
対 策	近隣市町の現況や対象者の現況を踏まえたニーズの把握、制度のあり方を検討していく。

【**評価結果**】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	対象者の経済的負担軽減のため、今後も継続して実施する。
------	----	------------------	-----------------------------

事務事業ID					部 長		課 長		係 長		担当者	
1200												
令和04年度					事務事業マネジメントシート							
事務事業名					重度心身障がい者タクシー利用等助成事業		担当課		健康福祉部社会福祉課			
政策体系	政 策		4		こころ寄り添う健やかなまちづくり		担当係		障がい福祉係			
	施 策		1		ともに支え合う福祉の充実		事業期間		平成18年度 ～			
	基本事業		3		障がい者福祉の充実		事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
予算科目			会計		款 項 目		大事業		実施形態		直営	
			一般会計		3 1 2		障がい者福祉事業費					

【PLAN（計画）】					
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる		
		基本事業の目的	障がいがある人もない人も同様に、お互いの人権と主体性を尊重し合いながら、住み慣れた地域の中で安心して暮らし、社会参加できる地域づくりを推進します。		
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	重度心身障がい者	①意図（どのようになることを目指すか）	安心して外出できる機会が増え自分らしく生活できる。外出することで社会参加の機会が増える。
	初期	②①になるために必要な状態	タクシー利用券の利用促進。タクシー券を利用しやすい体制が整っている。		

指 標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	アウトプット指標	タクシー利用券の利用率	%	目標値	70	75	80	85	90	100
				実績値	43	40	40	36	37	34
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】		
活動概要・アウトプット	事業概要	・身体障害者手帳1級又は2級を所持している在宅の障がい者、又は療育手帳Aを所持している在宅の障がい者に対して1枚500円のタクシー利用券を年間12枚を限度として交付する。
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） ・障がいがある人の経済的な負担を軽減するためにタクシー利用券を交付。 ・利用率 令和元年度 39.7%（ 337人 / 849人） 令和2年度 35.8%（ 323人 / 902人） 令和3年度 36.5%（ 317人 / 868人） 令和4年度 33.6%（ 287人 / 853人）

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	身体障がい者福祉会から要望を受け、旧保原町が昭和55年から事業を開始し、その後旧伊達町、旧梁川町、旧霊山町、旧月舘町が実施した。								
	根拠法令・要綱等	伊達市障がい者タクシー料金助成要綱	関連する個別計画	第3期障がい福祉計画						
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	介護タクシーにも利用可能になり、外出の機会が増えた								
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	1,828	1,845	2,561	1,637	1,415	1,578	
事業費計		千円	1,828	1,845	2,561	1,637	1,415	1,578		

事務事業 ID	1200	事務事業 名	重度心身障がい者タクシー利用等助成事業	所属 課	健康福祉部社会福祉課
------------	------	-----------	---------------------	---------	------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 （目指すべき状態への 進捗度）	タクシー券を交付することで、経済的負担を軽減を図り障がい者の社会参加・外出の機会が増えた。
課 題	利用する人と利用しない人の二分化が生じており、特に、山間部に住む障がい者にとっては、タクシー券は使いにくい現状にある。 今年度については、コロナ禍の影響により利用者が外出を控える傾向にあったため利用率が低下した。
対 策	介護タクシーやデマンドタクシーでも利用が可能であることの周知を図る必要がある。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	障がい者の経済的負担を軽減し社会参加を促す観点から、今後もタクシー券交付事業を行っていく。
------	----	------------------	---

事務事業ID					部 長		課 長		係 長		担当者	
2351												
令和04年度					事務事業マネジメントシート							
事務事業名					障がい者就労支援専門員設置事業		担当課		健康福祉部社会福祉課			
政策体系	政 策		4		こころ寄り添う健やかなまちづくり		担当係		障がい福祉係			
	施 策		1		ともに支え合う福祉の充実		事業期間		平成21年度 ～			
	基本事業		3		障がい者福祉の充実		事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
予算科目			会計		款 項 目		大 事 業		実施形態		直 営	
			一般会計		3 1 2		障がい者福祉事業費					

【PLAN（計画）】					
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる		
		基本事業の目的	障がいがある人もない人も同様に、お互いの人権と主体性を尊重し合いながら、住み慣れた地域の中で安心して暮らし、社会参加できる地域づくりを推進します。		
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	就労を希望する障がい者	①意図（どのようになることを目指すか）	住み慣れた地域で安心して自立した生活を送ることができる。
	初期	②①になるために必要な状態	専門員を配置することで就労を希望する障がい者に対して就労の支援が出来る体制。		

指 標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	アウトプット指標	求職登録者	人	目標値	30	35	40	40	40	40
				実績値	4	5	12	11	11	4
	アウトカム指標	就労者数	人	目標値	25	30	35	35	35	35
				実績値	0	5	12	6	9	3
				目標値						
実績値										

【DO（実施）】			
活動・アウトプット	事業概要	悪化した雇用状況のなか障がい者の就労は困難を極めており、障がい者の地域生活への移行に伴う、一般就労による生活自立を支援するため、就労支援専門員を設置して障がい者に対する就労支援の充実を図る。 本事業は、事業の運営の全部を伊達市社会福祉協議会に委託しており、就労サポート専門員が就労活動の支援や事業所への働きかけ等を行っている。	
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） ・相談件数 令和元年度 1,106件 令和4年度 418件 令和2年度 721件 令和3年度 666件 ・就労決定者数 令和元年度 12件 令和4年度 3件 令和2年度 6件 令和3年度 9件	

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	平成18年4月1日施行の障害者自立支援法の施行を契機に、障がい者が地域で自立した生活を送ることを目的に開始した。								
	根拠法令・要綱等	伊達市障がい者就労サポート専門員設置事業実施要綱	関連する個別計画	第3期障がい者計画						
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	企業の意識も向上しているが、障がい者が継続して就労することは困難な状況である。								
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	1,972	1,972	1,972	1,980	2,482	2,482	
		事業費計	千円	1,972	1,972	1,972	1,980	2,482	2,482	

事務事業 ID	2351	事務事業 名	障がい者就労支援専門員設置事業	所属 課	健康福祉部社会福祉課
------------	------	-----------	-----------------	---------	------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	就労サポート専門員が就労活動の支援や事業所への働きかけ等を行うことで、障がい者の就労につながり、地域で自立した生活を送ることができている。
課 題	障がい者に対する企業の意識も年々向上しているが、障がい者が継続して就労するには困難な状況である。 コロナ禍の影響で、特に障がい者の就労に対しては非常に厳しい状況にある。
対 策	障がい者の雇用又は訓練について、市内外の企業等に対して要請を行うとともに、広報紙、HP、医療機関、障がい福祉サービス提供事業所などを通じ、広く広報していく。 障がい者雇用に関係する機関との連携強化を図っていく。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	障がい者と企業のつなぎ役として重要な役割を担っており、今後も就労サポート専門員による障がい者の特性に応じたきめ細かな支援や、働く上で感じる不安を取り除いていく等就労活動の支援や事業所への働きかけ等を行い、障がい者が地域で自立した生活を送ることができるよう支援をしていく。
------	----	------------------	---

事務事業ID					部 長		課 長		係 長		担当者	
2027												
令和04年度					事務事業マネジメントシート							
事務事業名					障がい者就労サポート事業		担当課		健康福祉部社会福祉課			
政策体系	政 策		4		こころ寄り添う健やかなまちづくり		担当係		障がい福祉係			
	施 策		1		ともに支え合う福祉の充実		事業期間		平成23年度 ～			
	基本事業		3		障がい者福祉の充実		事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
予算科目			会計		款 項 目		大 事 業		実施形態		直 営	
			一般会計		3 1 2				障がい者福祉事業費			

【PLAN（計画）】					
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる		
		基本事業の目的	障がいがある人もない人も同様に、お互いの人権と主体性を尊重し合いながら、住み慣れた地域の中で安心して暮らし、社会参加できる地域づくりを推進します。		
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	交通費を負担しながら通所している障がい者	①意図（どのようになることを目指すか）	通所に係る交通費を支給することで、障がい者の経済的負担が軽減され安心して就労できるようになること。
	初期	②①になるために必要な状態	経済的な負担が軽減されたことにより、通所日数が増えて社会参加の機会が増える。 通所日数が増えることにより、介護者の身体的・精神的負担も軽減される。		

	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
指 標	アウトプット指標	登録者に占める利用者の割合	%	目標値	60	65	70	75	80	85
				実績値	53	48	38	38	39	40
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】		
活動・アウトプット	事業概要	障がい者の通所に係る交通費の1/2を助成する。 ・自家用車で通所する場合…160円/1L×距離（片道）×自動車利用回数×1/2 ・公共交通機関で通所する場合…往復に係る運賃の通所日数分の額の2分の1の額又は通所期間の定期券の額の2分の1の額。（定期券の助成額は、実際の通所日数分の額と比較していずれか低い方の額を支給）
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） 障がい者の通所に係る交通費の1/2を助成する。 令和4年度 助成対象者数 162人（162人/支給決定者数404人）

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	近隣市町村ではすでに実施していたこともあり、市民や事業所から強い要望を寄せられていたため、平成23年度から開始された。								
	根拠法令・要綱等	伊達市障がい者就労サポート事業実施要綱	関連する個別計画							
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	平成23年度の定期監査の際に、少額の場合の支給について検討する必要ありとの指摘を受けた。 経済的負担が軽減されたことにより、通所可能日数が増えた。								
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	2,784	3,121	4,358	3,285	3,444	3,761	
事業費計		千円	2,784	3,121	4,358	3,285	3,444	3,761		

事務事業 ID	2027	事務事業 名	障がい者就労サポート事業	所属 課	健康福祉部社会福祉課
------------	------	-----------	--------------	---------	------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	・通所事業所利用者の通所に係る交通費の負担を軽減するために、当制度の支給対象となる利用者には、登録申請の推奨を行っている。 ・障がい者:新規利用者に、本係ケースワーカーや施設職員が推奨を行っている。 ・障がい児:年度替わりに、障がい児支援係員が制度が、登録申請の通知を受給者証に同封して推奨を行っている。
課 題	登録者のうち利用者は4割程度となっている。利用の有無にかかわらず、「とりあえず登録だけしておく」といった障がい者も多い。
対 策	本制度の趣旨をてびき等で周知し通所につなげ、社会参加の機会を増やしていく。

【**評価結果**】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	障がい者施設等に通所する障がい者等に、通所に要する交通費の一部を助成し、経済的負担の軽減を図る。
------	----	------------------	--

事務事業ID				部 長		課 長		係 長		担当者		
1196												
令和04年度				事務事業マネジメントシート								
事務事業名				障がい福祉サービス事業		担当課		健康福祉部社会福祉課				
政策体系	政 策	4	こころ寄り添う健やかなまちづくり			担当係		障がい福祉係				
	施 策	1	ともに支え合う福祉の充実			事業期間		平成18年度 ～				
	基本事業	3	障がい者福祉の充実			事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
予算科目		会計		款	項	目	大 事 業		実施形態		直 営	
		一般会計		3	1	2	障がい福祉諸費					

PLAN (計画)											
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる								
		基本事業の目的	障がいがある人もない人も同様に、お互いの人権と主体性を尊重し合いながら、住み慣れた地域の中で安心して暮らし、社会参加できる地域づくりを推進します。								
	中間	①対象 (誰、何に対して行うか)	障がい者（団体）		①意図 (どのようになることを目指すか)		誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる。				
	初期	②①になるために必要な状態	障がい者福祉会などの団体をととして障がい者同士や市民の理解が深まる機会が提供されている。								

区 分		指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
指 標	アウトプット指標	障がい者福祉会への加入率	%	目標値	44	45	46	47	48	49
				実績値	23	23	23	19	20	20
	活動指標	団体の活動数	回	目標値	2	2	2	2	2	2
				実績値	2	2	2	1	2	2
				目標値						
				実績値						

DO (実施)										
活動・アウトプット	事業概要	・ 障がい福祉サービス提供に伴う事務 ・ 伊達市身体障がい者福祉会の運営に対する補助金交付事業 ・ 手をつなぐ親の会の運営に対する補助金交付事業 ・ 国庫負担金及び県費負担金の精算に係る事務 ・ 伊達市手話言語条例検討委員会の開催に伴う事務								
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） 手をつなぐ親の会の運営に対する補助金の交付 障がい者福祉施設環境整備事業補助金の交付								

現状把握										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	合併以前から旧町単位の身体障がい者福祉会及び手をつなぐ親の会に対して補助金の交付を行っており、合併後においても引き続き障がい者の社会参加促進を目的に実施している。								
	根拠法令・要綱等	伊達市社会福祉奨励事業補助金交付要綱	関連する個別計画		第3期障がい者計画					
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	補助金を交付している団体の加入者が年々減少している。								
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0	0
その他			千円	0	0	0	0	0	0	
一般財源			千円	20,895	507	507	2,586	11,388	25,450	
事業費計		千円	20,895	507	507	2,586	11,388	25,450		

事務事業 ID	1196	事務事業 名	障がい福祉サービス事業	所属 課	健康福祉部社会福祉課
------------	------	-----------	-------------	---------	------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	補助を行うことで、障がい者の社会参加が促進され、障がい者間の交流が深まることで、当事者同士、または市民に障がい者理解が深まった。 障がい者福祉施設環境整備事業補助金の交付により、高子駅北地区CCAC地内に障がい者福祉施設を整備し、障がい者が利用する施設の環境整備を行った。
課 題	補助金を交付している団体の加入者が年々減少している。 コロナ禍の影響で団体の事業等が縮小している。
対 策	障がい者団体について、手帳交付者等に対し周知、参加を促していく。

【**評価結果**】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	障がい者団体の活動は、障がい者の社会参加に繋がるとともに、交流が深まることで障がい者当事者同士、または市民との理解が深まることが期待される。 今後も、障がい者団体に対する活動支援を実施していく。
------	----	------------------	--

事務事業ID					部 長		課 長		係 長		担当者	
1206												
令和04年度					事務事業マネジメントシート							
事務事業名					地域生活支援事業		担当課		健康福祉部社会福祉課			
政策体系	政 策		4		こころ寄り添う健やかなまちづくり		担当係		障がい福祉係			
	施 策		1		ともに支え合う福祉の充実		事業期間		平成18年度 ～			
	基本事業		3		障がい者福祉の充実		事業区分		市単独事業・国県補助事業		国県補助事業	
予算科目			会計		款 項 目		大 事 業		実施形態		直 営	
			一般会計		3 1 2		地域生活支援事業費					

【PLAN（計画）】										
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	支援が必要な人たちを地域全体で支え合うことで、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができる							
		基本事業の目的	障がいがある人もない人も同様に、お互いの人権と主体性を尊重し合いながら、住み慣れた地域の中で安心して暮らし、社会参加できる地域づくりを推進します。							
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	障がい者、市民		①意図（どのようになることを目指すか）		障がい者が地域で自立した日常生活を営むことができる。			
	初期	②①になるために必要な状態	障がい者が安心して生活できるように、市民の障がい者に対する理解を深めること。 障がい者が住み慣れた地域で安心して生活できるように、生活の基盤となる福祉施設の環境整備を進めること。							

	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
指標	アウトプット指標	日常生活用具の給付件数	件	目標値	1, 400	1, 500	1, 600	1, 650	1, 700	1, 750
				実績値	1, 304	1, 239	1, 358	1, 343	1, 385	1, 449

【DO（実施）】								
活動・アウトプット	事業概要	・障がい者の状況に応じて次の事業を実施する。 ①理解促進研修・啓発事業 ②自発的活動支援事業 ③相談支援事業 ④成年後見人等制度利用事業 ⑤成年後見制度法人後見支援事業 ⑥意思疎通支援事業 ⑦日常生活用具給付等事業 ⑧手話奉仕員養成研修事業 ⑨移動支援事業 ⑩地域活動支援センター事業 ⑪訪問入浴サービス事業 ⑫更生訓練費給付事業 ⑬知的障害者職親委託事業 ⑭日中一時支援事業 ⑮スポーツ・レクリエーション教室開催事業 ⑯点字・声の広報等発行事業 ⑰自動車運転免許取得・改造助成事業						
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） ②自発的活動支援事業 音楽で子どもたちを元気にする会「にじいろ」、アレグレットの主催事業に補助金を交付した。 ⑧手話奉仕員養成研修事業 手話奉仕員を養成して聴覚障がい者を支援するために、手話奉仕員養成講座を開催した。（受講者：11名）						

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第77条に基づき実施する事業								
	根拠法令・要綱等	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 伊達市障がい者地域生活支援事業に関する条例・条例施行規則			関連する個別計画		第3期障がい者計画 第5期障がい福祉計画			
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	障がいの有無に関わらず人格と個性を尊重し安心して暮らせる地域社会の実現には、障がい者に対する理解が必要になるが、現状ではまだまだ不足している状況である。								
			年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	19, 953	20, 623	23, 540	18, 943	19, 450	22, 059
都道府県支出金			千円	9, 976	10, 311	11, 770	9, 471	9, 725	11, 029	
地方債			千円	0	0	0	0	0	0	
その他			千円	0	0	0	0	8, 736	0	
一般財源			千円	36, 112	28, 164	49, 287	43, 046	50, 532	42, 517	
事業費計			千円	66, 041	59, 098	84, 597	71, 460	88, 443	75, 605	

事務事業 ID	1206	事務事業 名	地域生活支援事業	所属 課	健康福祉部社会福祉課
------------	------	-----------	----------	---------	------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 （目指すべき状態への 進捗度）	地域生活支援事業は、地域の特性や利用者の状況等に応じ柔軟な事業を実施することが認められており、ニーズを反映させた事業を実施することができた。
課 題	国・県の補助事業であるが、国・県の予算の範囲内で交付されるため、補助率（国1/2、県1/4）どおりに補助金が交付されておらず、事業の拡充を検討する上で事業費の確保が困難な状況にある。
対 策	国・県補助金の確保が難しい場合は、各事業の優先順位をつけ、ニーズに合わせた事業の拡充、縮小を検討していく。

【**評価結果**】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	地域の特性や利用者の状況に応じた柔軟な事業形態による事業を実施していく。
------	----	------------------	--------------------------------------